

## 第3回さぬき市学校再編計画地域連絡協議会 会議録

日 時：平成20年2月21日（木）午後7時30分から9時04分

場 所：津田支所 2階委員会室

参加者：委員16名（欠席3名）

事務局：教育長、教育部長、教育総務課長、学校教育課長、担当職員6名

傍聴人：5名

### 1. 会議及び会議の結果の公開・非公開について

公開とする

### 2. 議 題

#### （1）報告

① 第2回さぬき市学校再編計画地域連絡協議会の会議結果について

#### （2）議事

① 地域協議会の協議状況について

② 中学校の再編計画について

#### 議事① 各地域協議会の協議状況について

（大川）小学校の建設候補地は、大川第一中学校跡地、富田小学校、大川公民館付近等の意見があり、中でも特に富田小学校での再編（統合）の意見が多かった。

富田小学校は、建築年数がかなり経過をしている。松尾小学校との統合を前提に早急に改築（新築）をしてもらいたい。反面、松尾小学校は市内の小学校でも比較的、新しい施設である。一部耐震補強は必要とのことであるが、できる限り存続し、児童数の状況をみて富田小学校へ統合してはとの意見であった。中学校の再編については、3校案の意見が多かった。ただし、事務局が示す建設場所（津田運動公園）は、通学に問題があり、他に条件のいい場所の選定が必要とのことであった。

（志度）小学校の再編計画は、末分校の存続か廃校かである。委員から直接、「末地区住民の意見を聞くべきでは」とのことから、2月2日、市教委主催による末地区住民説明会を行った。住民説明会では賛否両論はあったが、最終的な意見として、16歳以上を対象としたアンケート調査を実施することとなった。

（寒川）神前小学校と石田小学校との統合を前提に建設場所を協議する予定であったが、神前小学校から市教委へ質問事項が提示された。地域協議会は、提出された質問事項を基に質疑回答を行う方式で進められた。

（津田）小学校については平成21年4月に統合を前提とした協議を本年の4月から開始する予定である。中学校については3校案の意見が多いが、小田地区を志度中学校へ、神前地区の一部を長尾中学校へ行くような柔軟な対応が望ましいとの意見であった。建設場所は、

津田運動公園で意見の一致をみた。

(志度東) 中学校の再編については、志度東中と志度中学校との統合を望んでいる。

小学校は3校の統合案に対して、どの校区からも基本的には反対はない。建設場所は志度東中学校の跡地とは別に、旧町時代にゴルフ場用地として購入している土地も検討に入るべきではとの意見もあった。

(長尾) 多和・前山両地区の意見を直接聞く場を設ける予定である。

中学校については、①通学距離・通学の安全面から3校案は無理がある。②施設の投資額や維持管理費のことを考えれば3校だが、コストのみで再編（教育）を考えるのは危険である等の理由から4校案を支持する意見が多数を占めた。

(意見内容)

(委員) 市教委は建設後の維持管理費のことも考えているのか。また、財政的に厳しいのであれば中途半端な統合ではなく、2校案もいいのではないかとの意見があった。また、統合となれば制服や体操服等の費用面も考慮してほしいとの意見であった。

(委員) 津田・鶴羽小学校の統合に関して、正式な協議の場が必要である。そこで統合に向けてのルールを決めて欲しい。

議事② 中学校の再編計画について

(事務局) 資料1、資料2について説明

(委員) 学級数9クラスを基本とすれば、3-1案、3-2案、3-4案は長期的に見ればまた、生徒の減少により学級数の維持が難しくなる。そうなると2校案も考えなくてはいけないのではないか。

(委員) 3-3案で志度中学校に鴨庄・小田地区が統合されたら492人だが、今の志度中学校の設備で収容できるのか。

(事務局) 収容は可能である。

(委員) 3校案にした場合、自転車通学は無理がある。また、中学生は自分の足で通学してほしい。大規模な中学校を建て、施設の充実を図る。その代りに通学はスクールバスで通学をするという考えは短絡的ではないか。子供たちの足でいかに安全に通学できるかを考えてほしい。

(委員) 自転車通学を考えれば安全面を考えなければならない。体力的には問題はないと思うので、安全面と規模の問題を考えれば3校でいいのではないかと思う。また、小規模中学校であれば、専門の教員の確保が難しくなる。通学だけを考えれば今の方がいいと思うが、学校教育の充実を考えれば、統合をせざるを得ないのでないか。

(委員) 中学校では副担任制を実施しているところがある。小学校も導入が可能であれば、統合しても教育内容の充実になるから市民の理解が得やすいのではないか。

(委員) 純粹に子供のことを考えての再編計画であると思うが、学校の規模とか市の予算の位置づけしか見えない。通学が遠くなることは、子供に負担がかかる。出来るだけ子供に負担がかからないような計画をお願いしたい。また、地域と学校が協力して運営ができる学校であってもらいたい。

(事務局) 財政的に厳しい状況ではあるが、市として最重要施策として位置付けられている。限られた予算の中、効率的な予算執行をしていきたい。

(委員長) ある程度、学校の再編は必要ではないかと思う。いい意味での改革をしていかなければならぬ。

もう一つ非常に心配することは、災害時の不安である。子ども達の安全対策。また学校は市民の避難場所でもある。そういうことで、いつまでも古い建物でいいのかと考えている。予算が許すものなら市民に負担をかけずに、子ども達が勉強しやすい環境整備が必要と考える。

(事務局) 出来る限り皆さんのご意見をお聞きしたい。意見を基に教育委員会で再度検討をし、計画(案)を計画にしたいと考える。意見の中には、小規模の学校でいいという方もいる。しかし、子供たちは社会に飛び立っていく。そうした場合に小さな集団で成長した子供が厳しい社会に出た時に対応していくかどうか心配である。そういう意味からも、幼稚園の時代から出来るだけ多くの子供たちとふれあいをもって遊んだり、喧嘩をしながら徐々に逞しくなっていくのではないか。また、それには家庭教育の充実も重要だ。また、小規模の学校では、教員も向上意欲がなかなか沸かない。部活動も選択肢が限られてくる。そういうことを解消するための学校再編と考えている。

### 3. 次回の日程について

開催日時：平成 20 年 3 月 19 日（水）午後 7 時 30 分から

場 所：津田支所 2 階 委員会室